

*本件に関しては、日立パワーヨーロッパ社および日立パワーアフリカ社が、南アフリカ共和国にて1月16日に発表しています。

2010年1月21日
株式会社日立製作所

発電出力480万kWのメデュピ発電所のボイラー設備の据付を開始 南アフリカ共和国の電力供給に向けて前進

日立製作所(執行役会長兼社長:川村 隆 / 以下、日立)のグループ会社である日立パワーヨーロッパ社(CEO:Klaus Dieter Rennert / 以下、HPE)と日立パワーアフリカ社(CEO:Johannes Musel / 以下、HPA)は、1月16日、南アフリカ共和国(以下、南アフリカ)の電力会社である Eskom(エスコム)社が建設する Medupi(メデュピ)発電所のボイラー設備の据付を開始しました。

日立、HPE および HPA は、エスコム社が建設するメデュピ発電所および Kusile(クシレ)発電所向けに12基の石炭火力発電プラント用ボイラー設備を総額約5,700億円で2007年から2008年にかけて受注しました。1基あたりの発電出力は80万kWで、数カ月おきに順次ボイラー設備の据付を行います。2012年にメデュピ発電所の初号機が運転を開始し、2016年ないしは2017年までに完了する予定です。

メデュピ発電所には、6基のボイラー設備が据え付けられる予定であり、既存の石炭火力発電プラントに比べ高い運転効率を実現します。燃料消費を抑え、CO₂の排出抑制と経済性の向上を図ります。

また、HPE および HPA は、メデュピ発電所およびクシレ発電所について、ボイラーの設計、据付、試運転を行うだけでなく、現地における多くの雇用や事業機会を創出します。例えば、本プロジェクトでは約6割を現地から調達しています。また、耐圧部や鉄骨を含む、ボイラーの主要な部品は南アフリカで製造され、1,400人以上の認定作業者を養成しています。加えて、現地の支援組織の協力のもと、技術的職業訓練を約300人に実施しています。これによって、発電所の建設が終了した後も、専門業務に就くことが可能になります。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
